

第86回スタディグループ分科会結果報告

運営委員長 村田耕治

(文責：阿部)

1. 開催日時 2020年9月3日(木) 14時30分～16時55分
2. 開催場所 文京区民センター 3階3-A 会議室
3. テーマ 「グループガバナンスにおける子会社監査役の役割」
4. 発表者

リーダー	元東電設計(株)	常任監査役	名倉 良夫氏
コーディネーター	元三菱電機システムサービス(株)	常勤監査役	菊谷 純氏
メンバー	(株)日経サイエンス	監査役	平野 俊章氏
メンバー	元住友ケミカルエンジニアリング(株)	監査役	栗原 仁氏
5. 出席者 22名(含む発表者)
6. 配布資料
 - 1.資料1 グループ・ガバナンス・システムに関する実務指針
 - 2.資料2 会社法におけるグループ子会社へのガバナンス
 - 3.資料3-1 事例1(東電設計)自由記載欄
 - 4.資料3-2 事例2(三菱システムサービス)
 - 5.資料3-3 事例3(日経新聞)
 - 6.資料3-4 事例4(住友化学)
 - 7.資料4 グループ子会社でのリスク管理の高度化と監査の視点
7. 議事次第、意見交換
(前半 14:30～16:00):
 - 1) 村田運営委員長の開会挨拶に続き、初参加者5名の紹介がありました。朝日インタラクティブ(株)黒須氏、三井ホームコンポーネント(株)豊島氏、日本ユニシス(株)寺西氏、サウル石油(株)渡邊氏、王子マテリア(株)篠田氏でした。
続いて、コーディネータ菊谷氏より、メンバー紹介と進め方の説明がありました。
 - 2) まず、資料1に基づき栗原氏より「グループガバナンスシステム実務指針」の説明、資料2に基づき名倉氏より「会社法におけるグループ子会社へのガバナンス」の説明があり、
 - 3) 次に、各社の実態について、名倉、菊谷、平野、栗原氏の順で子会社監査役に関する各社事例の紹介がありました。
(名倉、菊谷氏は子会社の立場から、平野、栗原氏は親会社の立場から)
 - 4) 次に、名倉氏よりまとめとして「リスク管理の高度化と監査の視点」について、資料4に基づき説明がありました。休憩5分
(後半 16:05～16:55):
 - 5) 以下、質疑及び意見交換
 - ① 親会社からの子会社監査役への「落下傘型」就任についての考察。
グループガバナンスに対する親会社の意思を明確に示す意味で必要ではないか。

メリット、デメリットあろうがその当否は今後に待つ、というところか。

- ② 住友商事グループのグループ監査役制度について
監査役の出身母体として、経理出身、他部署出身のバランスをとることは親会社として必要。各事業部門に経理部があり、戦略を考える。
- ③ グループ会社監査役として、複数の場合は経理出身者も組み合わせてと考えたが、経理出身者少なく、実現していない。
- ④ 監査役の人材としては、「独立自尊」のできる人が大事ではないか。
- ⑤ グループガバナンスシステム実務指針はベストプラクティスを示したもの。「子会社経営に対する結果責任を問える仕組みの構築」とは、結局は人事・報酬の決定権ではなかろうか。
- ⑥ IT 上場会社の例。取締役の報酬は評価して、それをオープンにして、さらに取締役会で議論して決める。との事例紹介があった。また子会社監査役からの問題提起を親会社監査役は積極的に取り上げるべき、報告が上がるようにすべき、との指摘があった。
- ⑦ 監査役としては、情報収集の仕組みが大切。
- ⑧ 「派遣監査役」の運用は多様、非常勤の場合は業務量の増加、立ち位置の難しさなどの悩みも。

以上